



■長岡市でトキの分散飼育開始

10月11日に、県内において初の分散飼育地となる長岡市トキ分散飼育センターへ、トキ2ペアのあわせて4羽が移されました。

「分散飼育」とは、佐渡トキ保護センターのトキが鳥インフルエンザなどの感染症で絶滅することを避けるため、全国にトキを分散させて飼育するという取り組みです。

すでに、多摩動物公園（東京都）、いしかわ動物園（石川県）、出雲市トキ分散飼育センター（島根県）の3か所で行われても誕生しています。分散飼

育で生まれ育ったトキは、佐渡トキ保護センターへ移され、自然放鳥へ向けて訓練される予定になっています。



公開となつていますが、たくさんのトキが自然界で見られるよう守っていただきます。

たいと思います。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室  
トキ政策係(第2庁舎) ☎63-3761

■ご寄付ありがとうございました

10月9日、新穂ダム管理棟において佐渡市トキ環境整備基金への寄付金贈呈式が行われ、コープネット事業連合様より240万円のご寄付をいただきました。

佐渡市とコープネット事業連合、コープにいがたは、佐渡トキ保護活動を目的とした連携協定を締結し、産地と消費地との相互理解を強め交流していく取り組みを進めています。

ご芳志は、トキ保護増殖およびトキの生息環境整備のために活用させていただきます。ありがとうございました。



世界遺産登録に向けて

佐渡金銀山絵巻をひもとく(4) — 鉱石を掘る —

鉱石を採掘する坑夫を「大工」、または「金穿大工」といいます。

「鑿」と「穿」という鉄の鍬で鉱石を掘り採ります。鑿は直接手に持つのではなく、「上田箸」という鉄製のハサミで鑿元を押さえます。この鉄箸は、信州の上田銀山からやってきた大工たちが持参したのもとも、魚沼の上田銀山から伝えられたともいわれています。

このほか、玄翁や石割鑿などの鉱石を砕く道具や、掘り出した鉱石を量る斤量が絵巻の中に描かれています。

鉱脈のことを「立合」といい、それに向かつて掘ることを「引立穿」といいます。このほか天井に向かつて掘ることを「冠穿」、地面に向かつて掘ることを「台穿」といいます。硬い鉱石を掘るため、2日で鑿はすり減ってしまいます。採掘は、原則2人一組で行い、替り大工と交代で休みをとりました。

嘉永5(1852)年2月晦日、佐渡を訪れた吉田松陰は、鶴子銀山の屏風沢仕出来間歩を見学し、次のように記しています。

「入ること十四、五町、坑中に光あり、打声丁々、歌声琅々たり、入りて之れを視れば、則ち鉱を穿つ者なり」。また、「坑内甚だ暖かにして……満身汗を生ず」とあり、絵巻のように大工たちが裸で作業している様子があります。

このほか、坑内外の人夫を「穿子」といい、掘り出した鉱石を運び出す「荷揚穿子」や、鈍くなった鑿を交換する「鑿穿子」などがいます。

穿子の手配を請け負うのが「穿子請」、その手代に「穿子頭」がいて、穿子たちを管理します。敷内で穿子を差配するのを「穿子遣」といい、様々な役割がありました。



裸姿の金穿大工たち。着物を着ているのが穿子。(佐渡銀山往時之稼行絵巻より)

◆市役所世界遺産推進課(金井コミュニティセンター内) ☎63-5136